

第5節 外国語活動

1 基本的な考え方

(1) 外国語活動における学習意欲を高める指導の基本的な考え方

平成20年3月に告示された小学校学習指導要領において、外国語活動の目標は次のように示されている。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。



図1 コミュニケーション能力の素地のイメージ

「コミュニケーション能力の素地」とは、中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支える「基礎・土台」であり、「言語や文化に対する体験的な理解」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」「外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」という3つの目標の総合体である。菅(2007)は「コミュニケーション能力の素地」のイメージ画を示している(図1)。3つの目標が互い

に絡み合い、「コミュニケーション能力の素地」を作っていることがわかる。

近年、学校・家庭・地域を含めた社会全体の変化とともに大人の意識や行動の変化を背景にして学校教育の抱える課題は複雑化・多様化してきている。表現が乏しいために人との交流が苦手であったり、相手の言うことを正しく聞き取ることができず、コミュニケーション能力の低下から、人間関係をうまく築くことができない児童が増加していることは今日の学校の課題の一つである。この課題を解決するために、児童のもつ柔軟な適応力を生かして、日本語と異なる外国語に触れ、言葉の大切さや豊かさに気付かせたり、言語やコミュニケーションに対する興味を高めることが、学習意欲を高めることにつながる。

(2) 学習意欲を高める指導方法の工夫

児童の学習意欲を高めるためには、興味を持続させることが必要である。「興味という土壌が豊かでなければ、学力という果実の収穫は望めない。」(朝日新聞、2007)という言葉にあるように、児童にいかに関心をもたせるかについて指導方法を工夫することが、学習意欲の喚起につながり、学力として定着していく。

小学校学習指導要領解説では、外国語活動の目標を踏まえ、次のように内容を示している。

〔第5学年及び第6学年〕

1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項に

ついて指導する。

(1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。

(2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。

(3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。

(1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

(2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。

(3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

1はコミュニケーションに関する事項で、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するためには、実際に体験させることが大切であることを述べている。2は言語と文化に関する事項で、言語や文化について、体験的に理解を深めることを述べている。

外国語活動では、単に児童が喜ぶような楽しい活動を行えばよいというものでない。児童が使える外国語を駆使し、さまざまな相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験することが大切である。「自分の思いが伝わって楽しい。」「相手の思いが分かった。」「自分もそれについて思いを相手に伝えたい。」という、言語によるコミュニケーションの楽しさを体験的な活動を通して味わわせることを工夫する必要がある。

(3) 学習意欲を高めるための授業モデルの在り方

ア プログラム型英語活動とプロジェクト型英語活動

あらかじめ授業内容が定められ、児童はこれに従って学習していく英語活動（以下「プログラム型」という）は小学校低学年から多く行われてきた。このプログラム型は、教師主導であらかじめ学習する内容が細部まで決められた指導案に従い授業が行われるため、活動の流れをパターン化しやすい。教師にとって負担が少なく、活動を英語で行うことが容易である。しかし、各時間の活動内容につながりがなく、記憶に残りにくいことや、活動が歌やゲームなどに偏りがちになる。児童にとっては、活動に対する「新鮮さ」がうすれ、「物足りなさ」を感じるようになり、児童の興味を一層喚起したり、持続させたりすることは難しい。（奈良県立教育研究所、2008）

一方、課題を設定し、数時間をまとめ取りしてグループなどの主体性・自主性を最大限に尊重しながら、創造的な活動をさせる英語活動（以下「プロジェクト型」という）がある。プロジェクト型は各時間の連続性や発展性を考慮し、児童の創造性や課題解決能力を育成するために課題を設定し、その課題を解決していくものである。児童が必要な活動を選択し、活動のゴールや方法を決めることから活動するため、主体的・創造的な学びが生まれる。また、グループ学習やペア学習、異学年交流などを通して共同の学びを体験することができる。課題の解決というゴールに向けて明確な目的意識があるために、主体的・創造的な活動になり、児童の興味を最後まで持続させることができる。（東野・高島、2007）

イ プロジェクト型による学習意欲を高めるための授業モデル

児童の興味を持続させ学習意欲を高めるために、次のような研究課題を設定し、プロジェ

クト型による授業モデルに取り組んだ。

—研究課題—

- 自らが発信し、コミュニケーション活動を進めることで、言語活動の充実を図る。
- 外国の言語や文化に触れることによって、日本の学校生活や学校行事とを比較し、共通点や相違点に気づき、外国語や異文化について興味を高めていく。
- 達成感や成就感を味わわせるために、体験的な活動を通して、学習意欲を高める授業モデルを構築する。

児童が自らの考えを述べ、グループ活動で話し合い、ALTと積極的にコミュニケーションを図り、外国への発信を試み、さらに交流を続けるというように、相手を意識し、目的をもって自らの考えを表現する機会を増やすことで言語活動の充実を図ることができ、児童の学習意欲を高める授業にもつながると考えた（図2）。

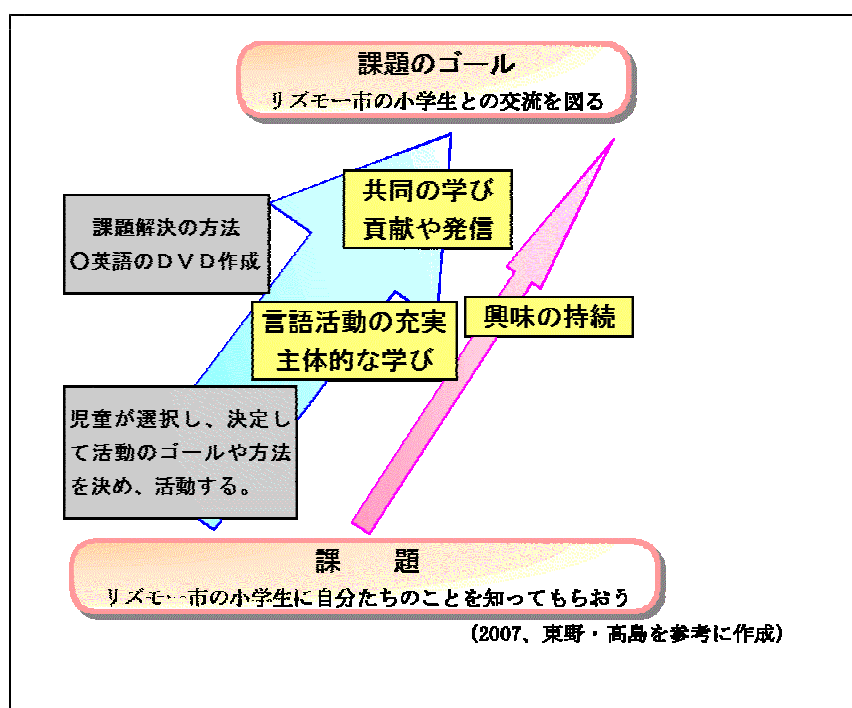


図2 課題と課題のゴールへの方途

具体的には、大和高田市と姉妹都市であるとオーストラリアのリズモー市との交流を通して、「リズモー市の小学生に自分たちのことを知ってもらおう。」という学習課題を設け、研究に取り組んだ。

2 事例

(1) 単元 英語でDVDを作ろう

(2) 学年 第6学年

(3) 単元の構想

大和高田市は、オーストラリアのリズモー市と姉妹都市であり、給食でリズモー市の特産物であるマカダミアナッツが出されたこともある。しかし、児童はリズモー市やオーストラリアについてほとんど知らない。そこで、リズモー市やオーストラリアについて知り、日本との共通点や相違点などを見つけ、自分たちのことを知ってもらおうと思い、DVDを作ることにした。

本学級の児童は明るく元気に活動し、学習においても落ち着いて取り組める。また、与えられた仕事は責任をもってする児童が多い。しかし、自分に自信がなく、初めてのことに不安を感じる児童、自分の考えを積極的に発表することができない児童、与えられた以上のことができない児童もいる。


本学年は、1～4年時に年3回、5年時に年8回の外国語活動を行ってきた。今年度は、ALTと13回、学級担任と12回の外国語活動を設定している。外国語活動の時間は、児童はALTの口元を見て発音をまね、ALTの言っていることを聞き取ろうと真剣な顔で聞いている。また、ペアで活動することも大好きであることから、英語への興味・関心は高いように思われる。そこで、学級担任から与えられた課題をこなすだけでなく、自分たちの考えを英語で伝えるためのDVD作りを通して、達成感、成就感を味わわせ、自信をもたせ、自主性を育てたいと考えた。DVD作りはグループで行うため、コミュニケーションは不可欠である。相手に分かりやすく伝えるためにはどうすればいいのかを、グループでしっかりと話し合うことで、自分の考えを少しずつではあるが、伝えることができると考える。

(4) 単元の目標と評価の観点

単元の目標	評価の観点
○相手を意識し分かりやすいDVDを作るために、グループで積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	○コミュニケーションの力
○他のグループからのアドバイスを聞き、自分たちのグループに取り入れようとする。	○コミュニケーションの力 ○関心・意欲・態度
○紹介に使う表現や自分たちの話したい基本的な英語表現に慣れ親しみ、積極的に使おうとする。	○言語に対する気付き・理解 ○関心・意欲・態度 ○技能・表現

(5) 指導と評価の流れ（全9時間）

	学習活動	●指導の留意点 ◎評価規準〈方法〉
第1	○オーストラリアについて知っていることやオーストラリアのイメージについて話し合う。 ・リズモー市について知る。	●オーストラリア体験セット（豪日交流基金が製作した学校用教材で、オーストラリアの学校生活、スポーツ、動物等を紹介するグッズ一式）を使用する。

時	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎指導者の話を興味をもって聞き、オーストラリアについて理解しようとしているか。 〈行動観察〉
第2・3時	<ul style="list-style-type: none"> ○オーストラリアについてグループで調べ学習を行い、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●オーストラリアに関する本を読む。 ●クイズ形式で発表することを確認する。 ●オーストラリア体験セットを使って補足説明を行う。 ◎オーストラリアについて知りたいことを本やインターネットで調べようとしているか。 〈行動観察〉 ◎調べたことを分かりやすく発表しようとしているか。 〈行動観察〉
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちのグループが知らせたいことについて話し合う。 ・学校生活について（制服・給食・授業・休み時間等） ・学校行事について（遠足・運動会・修学旅行等） ・日本語で紹介文を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●オーストラリアと日本との相違点に着目できるよう助言する。 ●自分たちが知ってほしいことや、外国人にとって珍しいと思われることを考えるように助言する。 ◎グループで話し合っ、自分たちが知らせたいことを決めようとしているか。 〈ワークシート〉
第5・6時	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人にとって分かりやすい紹介文を考える。 ・紹介に必要な基本表現を知る。 ・紹介文は2～3文とする。 ・あまり長い紹介文にならないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の自由な発想を大切にする。 ●ALTへの質問、和英辞典の活用等を通して、自分たちで英訳に挑戦する意識を高める。 ◎ALTや担任に基本表現を積極的に質問しているか。 〈行動観察〉 ◎基本表現以外で、紹介に使う英文が理解できているか。 〈行動観察〉 ●ALTの発音をまねるよう意識を高める。 ◎紹介に使う英文を積極的に練習しようとして意識しているか。 〈行動観察〉
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ○撮影するビデオの内容を考える。 ・紹介する学校施設、撮影の方法等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●紹介文と同時に、具体物を撮影することで効果的に伝えられることを助言する。 ◎グループで協力して動作を練習したり、撮影方法を考えようとしているか。 〈行動観察〉
	<ul style="list-style-type: none"> ○ビデオ撮影後、お互いの映像を見て感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●分かりやすいDVDの完成に向けて、リハーサルを通して意識を高めるよう助言する。

第8時(本時)



●全員で各グループがうまく表現し、内容を伝えることができたかを確認する。

◎他のグループにアドバイスやよかった点を伝え、積極的にコミュニケーションを図ろうとしているか。 (行動観察)

英語でDVDを作ろう
名前(A 君)

	アドバイス	よかった点
1	声を大きくした方がよい。	はきはきと話している。
2	写真の見せ方を工夫した方がよい。	声が大きくてわかりやすい。
3		百人一首を実際にやっていたのでわかりやすい。
4		
5		
6		

ワークシート

第9時

○もう一度、ビデオを撮影する。

●ゆっくりと大きな声で話すように助言する。
◎他のグループからのアドバイスを生かして、グループで協力してDVDを撮影しようとしているか。 (行動観察)

(6) 学ぶことへの関心・意欲を高める指導と評価の工夫

児童は新しいことを知ることが大好きである。そこで、姉妹都市であるオーストラリアのリズモー市の文化に触れることによって、自分たちの学校生活や学校行事と比較し、共通点や相違点を知り、外国語や異文化への興味を高めていく。さらに身近なことや日本について振り返り、DVDの作成を通して友達と協力しながら日本の情報を発信することにより、さらに外国語や異文化への興味を高めていく。新しい学習指導要領で改善事項に示されている「言語活動の充実」の視点から、児童が達成感、成就感を味わえるような学習を工夫した。

評価の観点である「関心・意欲・態度」では、児童の活動への取り組み方や異文化に対する関心などを観察して評価する。「コミュニケーションの力」では、英語活動においても中心的な活動である「聞くこと・話すこと」をひとまとまりの活動と考え、グループでの話し合いやワークシートを活用した相互評価等、日本語によるコミュニケーションの力も評価する。「言語に対する気付き・理解」では、自分の言いたいことを相手に分かりやすく英語で

伝えることができるかどうかを評価する。

評価の方法としては、行動観察、自己評価、相互評価を行う。振り返りカードやアンケートでは、それぞれの活動や学習について興味をもって進められたか、自分はどれぐらいできたかなどを振り返ることができる。特に、児童が相互に認め合うことによりお互いを認め合う雰囲気を作り、自己に自信をもたせるために相互評価に重点を置くことにする。評価を通して、活動をよりよいものにして、児童の意欲を高め、興味を持続させたい。具体的には、グループで作ったDVDを全員で視聴し、お互いによかった点を認め合ったり、他のグループにアドバイスを伝えることで積極的にコミュニケーションを図ろうする態度を評価する。

(7) 指導の実際

ア 本時のテーマ (Theme)

グループで協力して、分かりやすい紹介DVDを作ろう。

イ 本時のねらい (Aims)

自分のグループの振り返り及び他のグループへのアドバイスを行う。

ウ 言語材料 (Language materials)

Topic	Vocabulary	Target Dialogue
Greetings	fine, good, happy, hungry, sleepy, hot, cold,	Hello. How are you? I'm ~.
New words and phrases	school uniform, school lunch, shogi, calligraphy, one hundred poem-cards, school festival, school trip, Todaiji Temple	We will introduce ~. This is ~. There is ~. We will show you ~.
話題	言語材料	目標会話表現
新出語句	元気な、よい、楽しい、おなか がすいている、眠い、暑い、寒い	こんにちは。元気ですか。 私は～です。
	制服、給食、将棋、書写、 百人一首、運動会、修学旅行、 東大寺	私たちは～を紹介します。 これは～です。 ～があります。 ～を見せます。

エ 準備物 (Necessities for activity)

デジタルカメラ ワークシート 各グループの撮影に必要なもの
パソコン プロジェクター 紹介文

オ 展開 (procedure)

展開 (Procedure)	児童の活動 (Students' activity)	担任の活動 (HRT's activity)	備考 (Notes)
1 あいさつ	・教師とあいさつをする。	・明るい雰囲気です活動に入ることができるようなあいさつを心がける。	
2 今日の活動、	・今日の活動内容、めあ	・撮影をする前にリハーサルを	

めあての確認	てを確認する。	することを確認する。	
3 ビデオ撮影	・具体物を使ってビデオを撮る。	・各グループを見て回り、声の大きさや撮影の工夫に関する指導や助言を行う。	
4 ビデオ鑑賞	・スクリーンでお互いの発表を鑑賞し、ワークシートに記入する。	・よりよいDVD作成に向けて、アドバイスをワークシートに記入するよう指示をする。	ワークシート
5 振り返りとあいさつ	・今日の活動を振り返り、あいさつを行う。	・今日の活動のよかった点をまとめ、次時への意欲につなげる。	

(8) 成果と課題

今回のプロジェクトの研究課題は、

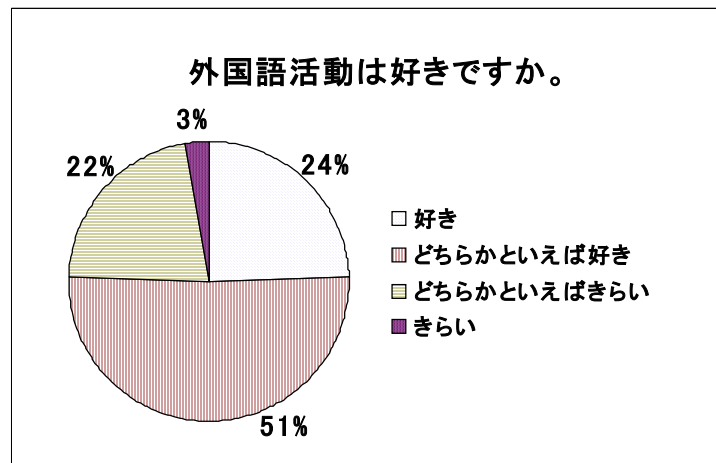
- 自らが発信し、コミュニケーション活動を進めることで、言語活動の充実を図る。
- 外国の言語や文化に触れることによって、日本の学校生活や学校行事とを比較し、共通点や相違点に気付き、外国語や異文化について興味を高めていく。
- 達成感や成就感を味わわせるために、体験的な活動を通して、学習意欲を高める授業モデルを構築する。

ということであった。

DVD作りはグループで行い、コミュニケーション活動を活発に行うことができた。自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかをグループや学級で話し合ったり、ALTに積極的に質問したりする場面が多く見られた。ふだんの授業で声の小さい児童も、オーストラリアの小学生に伝えたいという意欲を示し、しっかりとした声で発表することができたことも大きな成果であった。体験的な活動を通して、言語活動の充実を図ることで、相手を意識し、目的をもって自らの考えを表現する機会が増え、児童の学習意欲を高め、達成感や成就感を味わうことができる授業につながったと考えられる。

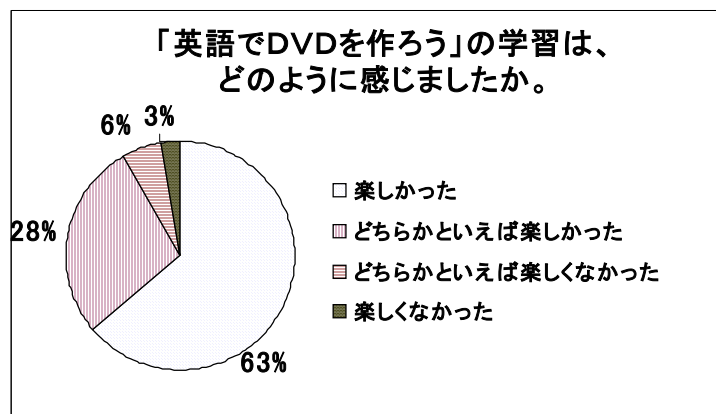
課題としては、1つのプロジェクトに対して設定する時間数を検討する必要がある。今回は9時間を設定し取り組んだが、年間35時間の中で、取り組むプロジェクトの内容と時間数については再検討する必要があると感じた。また、発表する児童の英語が、聞く児童にとって難しく、理解しにくい時や、紹介する日本文と英文が一致していない時があった。できるだけ平易な英語を使って、相手に分かりやすい発表ができるように指導していかなければならない。

プロジェクト型取組前

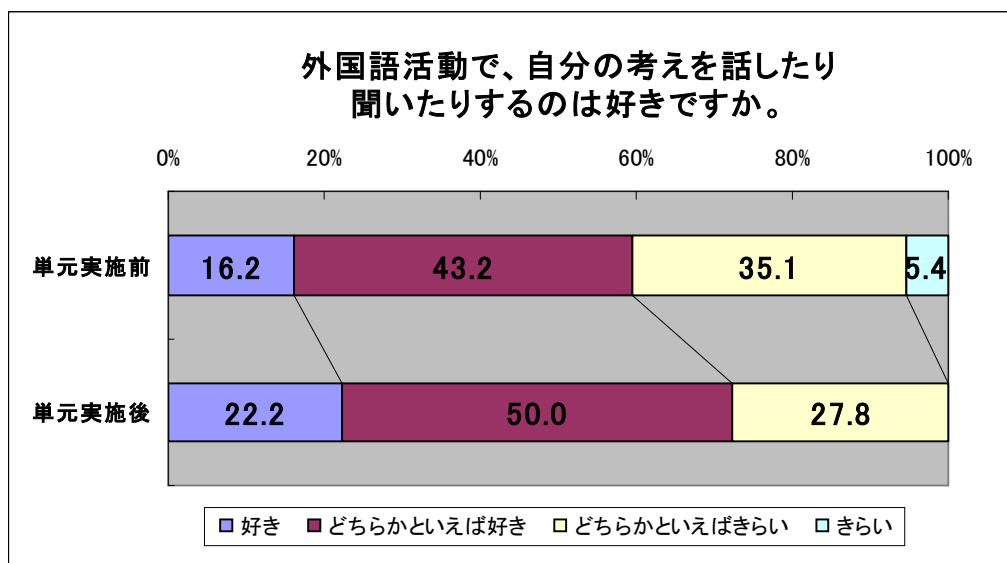


グラフ1 取組前の児童の意識

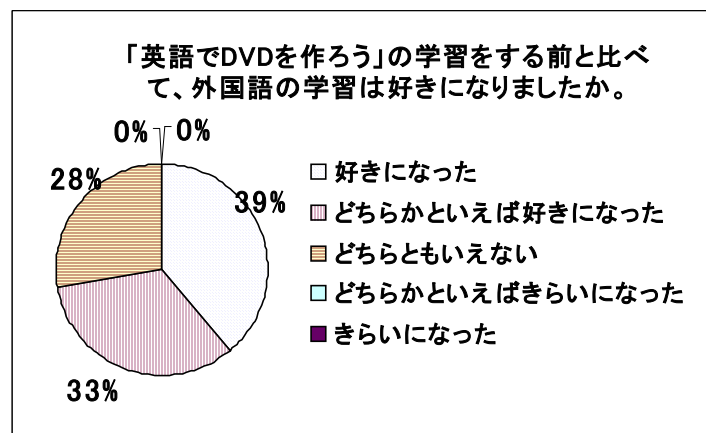
プロジェクト型取組後



グラフ2 取組後の児童の意識（1）



グラフ3 取組前と取組後の児童の意識の変化



グラフ4 取組後の児童の意識(2)

今回のプロジェクト型に取り組む前のアンケートで、外国語活動が「どちらかといえばきらい」「きらい」と回答した児童も楽しんで活動できたようである。また、自分の考えを話したり、聞いたりすることを「好き」と回答した児童が少しではあるが増えた。

今回の取組を通して、グループ活動のよさを実感した。一人で作り上げるのではなく、みんなで一つのもので作り上げるというグループ活動ならではの協力的な態度が見られた。児童自身もグループで活動することの楽しさを再認識していた。

よりよいDVDを作るために各グループでコミュニケーションを図り、完成したDVDを鑑賞しながら達成感、成就感を味わい、今回の英語でDVDを作るプロジェクト型について、9割以上の児童が「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」と肯定的な回答をしている(グラフ2)。また、「外国語活動で、自分の考えを話したり、聞いたりするのは好きですか。」の質問について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童の割合は、単元実施前と比べて、約13ポイント高くなった(グラフ3)。しかし、「どちらかといえばきらい」と答えた児童が10名いたことについては、その理由を検証し、今後の取組に生かしていく必要がある。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省(平成20年)『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』pp. 7-16
- (2) 菅正隆(2008)「コミュニケーション能力の素地 イメージ画」
- (3) 朝日新聞朝刊(平成19年12月6日)
- (4) 奈良県立教育研究所(2008)「小学校における英語活動の指導の在り方」
<http://www.nara-c.ed.jp/gakushi/kiyou/h20/data/B-pro/B-A1.pdf>
- (5) 東野裕子・高島英幸(2007)『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』pp. 6-11